

# イタリア

Republic of Italy

	2013年	2014年	2015年
①人口：6,066万人（2015年）			
②面積：30万2,073km <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP：2万9,867米ドル （2015年）			
④実質GDP成長率（%）	△1.7	△0.3	0.8
⑤消費者物価上昇率（%）	1.2	0.2	0.1
⑥失業率（%）	12.1	12.7	11.9
⑦貿易収支（100万ユーロ）	36,034	49,204	53,625
⑧経常収支（100万ユーロ）	14,293	30,779	34,910
⑨外貨準備高（100万米ドル）	50,775	47,689	47,034
⑩対外債務残高（グロス） （100万ユーロ）	1,911,392	2,019,162	2,083,550
⑪為替レート（1米ドルにつき、 ユーロ、期中平均）	0.7532	0.7537	0.9017

〔注〕⑦：国際収支ベース（財のみ）、⑩：2015年は速報値  
〔出所〕①②④～⑥：イタリア国家統計局（ISTAT）、③⑨⑪：IMF、⑦⑧⑩：イタリア銀行（中央銀行）

2015年のイタリアの実質GDP成長率は0.8%増で4年ぶりにプラス成長となり、民間最終消費支出、国内総固定資本形成などが回復した。直接投資は、引き続き国際的な企業買収などが継続的に実施されているものの金額としては対内投資、対外投資とも減少した。対日貿易では輸出入とも輸送機器が増加した。

## 4年ぶりのプラス成長に回帰

2015年の実質GDP成長率は4年ぶりにプラス成長となった。GDPの約6割を占める民間最終消費支出は前年比0.9%増だった。国内総固定資本形成は0.8%増。上半期にミラノ万博に伴うインフラ整備が理由と考えられる運輸セクターの顕著な伸長などにより、長期にわたるマイナス成長から回復した。政府最終消費支出は0.7%減だったが、レンツィ政権は財政拡大を志向し、EU内の規律の緩和を求めている。

2016年第1四半期の実質GDP成長率は前期比0.3%増、前年同期比1.0%増（改定値）。経済財政省は2016年のGDP成長率を1.2%（2016年4月発表値）と予測している。

## 輸出は輸送機器が好調

2015年の輸出は、前年比3.8%増の4,138億8,100万ユーロとなり、2年連続の増加となった。輸入も内需や生産の回復を裏打ちする形で、3.3%増の3,687億1,500万ユー

ロと4年ぶりに増加に転じた。輸出を品目別にみると、構成比3位の輸送機器（構成比10.9%）が12.7%増と大きく伸びた。特に好調だったのが米国向け自動車の96.1%増で、全体を牽引。フィアットクライスラー・オートモビールのジープ・レネゲードは2014年から同社イタリア・メルフィ工場での生産が始まり、米国市場への出荷が増加した。原油価格の下落や好調な米国経済も輸出を後押しする形となった。

輸出を国・地域別にみるとEU28（構成比54.9%）向けは前年比3.9%増となり2年連続で増加した。EU圏内ではスペイン（4.8%）への輸出金額が最も伸長し10.1%増だった。電子・電気機器、自動車・部品・アクセサリ、医薬品・医薬製剤、石油精製品などが軒並み増加した。医薬品分野では武田薬品工業とメナリーニのスペインでの糖尿病治療薬販売の提携、医薬製剤ザムボンのパーキンソン病治療薬がスペインで承認されたことなど、イタリア企業製品の輸出に追い風が吹いた。ベルギー（3.5%）への輸出も10.6%増加した。特に医薬品・医薬製剤が大きく伸長、製薬大手ヤンセンファーマのイタリア工場での生産品はベルギーの物流拠点に輸送されており、同社の生産増が医薬品の輸出に大きな影響を与えた。EU非ユーロ圏向けでは、英国（5.4%）への輸出が7.4%増加。特に自動車、発泡性ワインの輸出の伸びが目立った。

EU28域外向けは、北米（10.4%）向けの輸出が20.1%増加。米国向け自動車が最も上向

表1 イタリアの需要項目別実質GDP成長率

	2014年	2015年				2016年 Q1	
		Q1	Q2	Q3	Q4		
実質GDP成長率	△0.3	0.8	0.1	0.6	0.8	1.1	1.0
民間最終消費支出	0.6	0.9	0.4	0.7	1.2	1.3	1.5
政府最終消費支出	△1.0	△0.7	△1.2	△0.6	△0.8	△0.2	0.8
国内総固定資本形成	△3.4	0.8	△0.8	0.0	1.1	2.2	1.8
財貨・サービスの輸出	3.1	4.3	5.3	5.2	3.2	2.7	△0.4
財貨・サービスの輸入	3.2	6.0	6.3	6.5	5.0	5.4	1.2

〔注〕四半期の伸び率は前年同期比。

〔出所〕イタリア国家統計局（ISTAT）

表2 イタリアの主要品目別輸出入

(単位：100万ユーロ、%)

	輸出				輸入			
	2014年	2015年			2014年	2015年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
機械	74,142	75,767	18.3	2.2	23,893	25,969	7.0	8.7
繊維・衣料品・皮革製品	47,235	48,023	11.6	1.7	28,770	30,357	8.2	5.5
輸送機器	40,061	45,137	10.9	12.7	32,158	39,073	10.6	21.5
金属製品	44,623	43,711	10.6	△2.0	36,012	37,989	10.3	5.5
食品・飲料・たばこ	28,395	30,253	7.3	6.5	28,958	29,076	7.9	0.4
化学品	25,977	27,028	6.5	4.0	34,295	35,109	9.5	2.4
ゴム・プラスチック・非金属鉱物製品	23,787	24,771	6.0	4.1	12,339	12,958	3.5	5.0
電気機器	20,829	21,938	5.3	5.3	13,617	15,425	4.2	13.3
医薬品	20,933	21,872	5.3	4.5	19,827	22,106	6.0	11.5
コンピューター・電子・光学機器	12,091	13,417	3.2	11.0	23,041	25,303	6.9	9.8
燃料・石油精製品	14,057	12,455	3.0	△11.4	10,167	7,328	2.0	△27.9
木材・木工品・紙製品・印刷物	8,005	8,328	2.0	4.0	9,455	9,974	2.7	5.5
農林水産物	5,936	6,604	1.6	11.3	12,959	13,721	3.7	5.9
鉱物・石油・天然ガス	1,178	1,157	0.3	△1.8	48,254	39,170	10.6	△18.8
合計（その他を含む）	398,870	413,881	100.0	3.8	356,939	368,715	100.0	3.3

[注] EU域外貿易は通関ベース（輸出はFOB、輸入はCIF）、EU域内貿易は各企業のインボイス報告などに基づく。

[出所] イタリア国家統計局（ISTAT）

いたが、その他食料品、ファッション関連製品、機械類などの主力輸出品を含む多品目で輸出が伸長した。米国経済とユーロ安／ドル高の影響と考えられる。アジア大洋州（10.2%）向けは3.2%増加。中国（2.5%）向けが0.7%減と微減したものの、香港（1.4%）が8.3%増など全般的に好調だった。ロシア、アフリカ、中南米向けの輸出は減少した。ロシア（1.7%）への輸出はEUによる経済制裁の影響から機械類からファッション製品まで多品目にわたり減少し、25.2%減だった。アフリカ（4.5%）向けも6.9%減少した。石油精製品の金額の落ち込みが重量の落ち込みより大きく、原油価格の下落の影響を受けた。

## ■輸入は全般的に増加

輸入を品目別にみると、原油価格の低迷から燃料・石油精製品（構成比2.0%）が27.9%、鉱物・石油・天然ガス（10.6%）が18.8%減少したが、それ以外の品目全てで増加した。最も輸入が拡大したのは輸送機器（10.6%）で21.5%増だった。特に自動車が19.2%、その他の自動車部品が26.8%増加した。2015年の新車登録台数は前年比15.8%増加しており、需要回復がうかがわれる。医薬品（6.0%）の輸入も11.5%増加した。中でもアイルランド、米国、ベルギーからの輸入が大きく増加した。各国とも製薬会社の本社機能や物流拠点が存在しており、製造・加工拠点が立地するイタリアへの原料や中間体の輸送が増加したものとみられる。

国・地域別にみると、EU28（構成比58.5%）は前年比5.8%増となった。最大の輸入相手国のドイツ（15.4%）は4.5%増加。ベルギー（4.7%）からの輸入は医薬品・医薬製剤や原料、有機化学品、自動車を中心に13.8%増加した。ユーロ圏外では、ポーランド（2.3%）からの輸入

が自動車部品や自動車、鉄道車両・構造物を中心に18.7%増加した。北米（4.6%）は医薬品、輸送機器を中心に4.7%増加した。アジア大洋州（13.2%）からの輸入も全般的に増えた。中国（7.6%）が鉄鋼、電子・電気機器を中心に12.3%増加。鉄鋼の輸入増は中国産鉄鋼の大幅な価格下落によるものとみられる。トルコ（1.8%）からは自動車を中心に15.8%増加、同国は2015年に自動車生産台数が過去最高を記録し、欧州への輸出が活発になっている。中東（4.1%）からは8.3%減少。アラブ首長国連邦（0.2%）は石油精製品やアルミニウムなどの増加により35.6%増となったが、原油価格下落のためサウジアラビア（0.9%）が19.9%減少した。

## ■対内・外とも直接投資金額は減少

イタリア銀行によると、2015年の対内直接投資（国際収支ベース、ネット、フロー）は、製薬分野の大型買収が目立った前年から44.6%減少して71億6,800万ユーロとなった。大規模な投資事例としてはドイツ・フォルクスワーゲン傘下ランボルギーニによるサンタガタ・ボロネーゼの工場の設備増強が挙げられる。2018年発売予定の新型SUV生産のために数億ユーロ規模の投資を行い、工場を約2倍に増床する。データセンターへの投資も目立った。米国データセンター運営スーパーナップは市場性に加え自然災害リスクの低さを重要視し、ミラノ近郊にデータセンターを設立した。サウジアラビアのガルフ・インフォネット傘下のホストジーもパレルモにデータセンターを設立した。M&Aでは医療・医薬品関連の大型買収が目立った。米国医療機器製造サイベロニクスは心臓用医療機器製造のソーリンと合併、米国医薬品製造バクスターは医薬製剤シグマ・タウ・フィナンツィア

表3 イタリアの主要国・地域別輸出入

(単位：100万ユーロ、%)

	輸出				輸入			
	2014年		2015年		2014年		2015年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
EU28	218,824	227,284	54.9	3.9	203,890	215,781	58.5	5.8
ユーロ圏	161,117	166,372	40.2	3.3	162,107	170,551	46.3	5.2
ドイツ	50,144	51,023	12.3	1.8	54,388	56,809	15.4	4.5
フランス	42,016	42,548	10.3	1.3	30,803	32,109	8.7	4.2
スペイン	18,030	19,854	4.8	10.1	17,236	18,391	5.0	6.7
ベルギー	13,196	14,595	3.5	10.6	15,082	17,156	4.7	13.8
非ユーロ圏	57,103	60,568	14.6	6.1	41,423	44,907	12.2	8.4
英国	20,939	22,484	5.4	7.4	10,282	10,575	2.9	2.8
ポーランド	10,352	10,888	2.6	5.2	7,222	8,575	2.3	18.7
ルーマニア	6,272	6,658	1.6	6.2	6,013	6,288	1.7	4.6
スイス	19,053	19,239	4.6	1.0	10,401	10,847	2.9	4.3
ロシア	9,503	7,109	1.7	△25.2	17,276	14,259	3.9	△17.5
アジア大洋州	40,749	42,058	10.2	3.2	43,800	48,822	13.2	11.5
中国	10,494	10,422	2.5	△0.7	25,075	28,158	7.6	12.3
ASEAN	7,112	7,104	1.7	△0.1	6,917	7,627	2.1	10.3
日本	5,357	5,517	1.3	3.0	2,703	3,122	0.8	15.5
韓国	4,157	4,506	1.1	8.4	2,343	3,198	0.9	36.5
香港	5,460	5,911	1.4	8.3	247	314	0.1	27.1
北米 (NAFTA)	35,928	43,159	10.4	20.1	16,164	16,921	4.6	4.7
米国	29,756	35,989	8.7	20.9	12,477	14,194	3.8	13.8
アフリカ	20,189	18,800	4.5	△6.9	21,278	19,141	5.2	△10.0
中東	19,867	21,543	5.2	8.4	16,604	15,231	4.1	△8.3
アラブ首長国連邦	5,330	6,188	1.5	16.1	627	851	0.2	35.6
サウジアラビア	4,820	5,138	1.2	6.6	4,185	3,354	0.9	△19.9
中南米	13,911	13,776	3.3	△1.0	9,515	9,487	2.6	△0.3
トルコ	9,734	10,005	2.4	2.8	5,718	6,621	1.8	15.8
合計 (その他含む)	398,870	413,881	100.0	3.8	356,939	368,715	100.0	3.3

〔注〕①アジア大洋州は、ASEAN+6（日本、中国、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、インド）に香港および台湾を加えた合計値。

②ユーロ圏と非ユーロ圏の合計がEU28と合致しないのは、統計上どの国にも分類できない誤差脱漏が含まれていないため。

③EU域外貿易は通関ベース（輸出はFOB、輸入はCIF）、EU域内貿易は各企業のインボイス報告などに基づく。

〔出所〕イタリア国家統計局（ISTAT）

リアの急性白血病用製品部門を買収した。

2015年の対外直接投資（国際収支ベース、ネット、フロー）は、前年比10.7%減の137億7,700万ユーロとなった。イタリアのエネルギー企業による大型投資が目立った。エネルギー大手エニは今後数年間で、エジプトの油田開発のため最大50億ドル規模の投資を予定すると発表した。配電大手エネルはメキシコ子会社や北米子会社を通じて投資を実施した。M&A、出資等では、風力発電大手ERGグループが投資ファンドから、フランス11基、ドイツ6基の風力発電設備を取得、イギリスでも配電会社に対する出資比率を100%に引き上げるなど、欧州各地で積極的な投資を実施した。

この他金額の大きい事例としては、フィアット創業家アニエッリ家の投資ファンドであるエクソールによる英領バミューダに拠点を置く再保険会社パートナー・リーへの出資比率の100%への引き上げがある。1993年から同社の株式を保有していたが、同社のビジネスに長期的な重要性があるとして完全買収に至った。

## ■対日輸出・輸入とも輸送機器が大幅増

2015年の対日貿易は、輸出が前年比3.0%増の55億1,700万ユーロ、輸入が15.5%増の31億2,200万ユーロとなった。対日貿易収支は23億9,600万ユーロの黒字で5年連続の黒字となったが、黒字幅は前年比で減少した。輸出では、輸送機器（構成比16.8%）が41.4%増加、自動車が増39.4%増、その他の自動車部品も90.3%増と好調だった。イタリア生産車の日本国内での販売が比較的好調で輸出が伸長した。一方、医薬品（7.6%）は43.1%減少。2014年の急伸の反動とみられる。最大の輸出品の繊維・衣料品・皮革製品（29.0%）は2.7%増だった。

輸入では、溶接管やパイプの輸入増加に伴い金属製品（構成比9.1%）が103.2%増と急増した。輸送機器（24.5%）も好調で、自動車は18.9%増加した。自動車市場が徐々に回復しつつあり、日系各社の自動車販売台数も前年に比べ全般的に増加している。一方、電気機器（2.6%）は蓄電池の輸入の急減が影響し36.8%減らした。イ

タリアでは近年再生エネルギーの比率上昇に伴い蓄電池の導入が進んでおり、日系企業による受注も進んでいたが、2015年は大規模納入の案件がなかったとみられる。2015年は食をテーマとしたミラノ万博の開催年でもあり、食品・飲料・たばこ（0.3%）の輸入は61.8%増と好調だった。調味料・スパイスが102%増の224万ユーロ、果実酒類が112.8%増の92万ユーロ、水産加工品が152.5%増の67万ユーロ、肉・と畜品類が約30倍増の26万ユーロなど、貿易全体に占める金額割合は小さいが、大幅な増加傾向を示している。この実績は万博や各種イベントで日本食のPRが多数実施されたことによる効果もあると考えられる。万博後の継続した取引にどれだけ結び付けられるかが重要である。

## ■日系企業による買収が続く

イタリア銀行によると、2015年の日本の対イタリア直接投資額は5億6,200万ユーロと前年より174%と大幅に増加した。サプライチェーンの強化および技術取得・製品

表4 イタリアの国・地域別対内・対外直接投資  
 <国際収支ベース、ネット、フロー>

(単位：100万ユーロ、%)

	対内投資			対外投資		
	2014年	2015年		2014年	2015年	
	金額	金額	伸び率	金額	金額	伸び率
EU28	9,778	6,347	△35.1	5,153	2,032	△60.6
フランス	5,707	5,513	△3.4	1,457	1,185	△18.7
英国	5,050	2,732	△45.9	3,796	△2,182	-
ドイツ	1,191	1,559	30.9	△93	△14	-
オランダ	204	972	376.5	△2,295	394	-
スペイン	808	789	△2.4	△106	△540	-
アイルランド	△1,854	△20	-	690	3,580	418.8
ベルギー	3,708	△408	-	48	1,366	2745.8
ルクセンブルク	△4,977	△3,893	-	△1,336	△3,696	-
スイス	2,017	△631	-	1,107	△86	-
ロシア	△182	29	-	998	812	△18.6
アフリカ	202	193	△4.5	3,753	4,442	18.4
エジプト	23	34	47.8	985	1,161	17.9
アルジェリア	36	32	△11.1	1,355	1,602	18.2
北米 (NAFTA)	205	△28	-	△333	794	-
米国	193	△64	-	△567	541	-
アジア大洋州	417	621	48.9	913	1,960	114.7
日本	205	562	174.1	△531	△113	-
中国	19	120	531.6	△241	△256	-
インド	△5	100	-	1,043	1,244	19.3
シンガポール	△203	5	-	191	229	19.9
韓国	382	△257	-	9	△60	-
中東	299	△12	-	2,294	170	△92.6
合計 (その他含む)	12,928	7,168	△44.6	15,427	13,777	△10.7

〔出所〕 イタリア銀行

表5 イタリアの主要対内直接投資事例 (2015年)

業種	被買収企業 (事業)		買収企業		時期	投資額	概要
	企業名	企業名	国籍				
小売り	ワールド・デュー ティー・フリー	デュフラー・ファイナン シャル・サービシズ	オランダ		8月	13億ユーロ	スケマトレンタクアットロから株式50.1%を取得。
医療機器	ソーリン	サイベロニクス	米国		10月	12億1,800 万ユーロ	米国医療機器製造サイベロニクスが心臓用医療 機器製造のソーリンと合併。
通信	テレコムイタリア	ヴィヴェンディ	フランス		6月	10億ユーロ	株式保有比率を1.9%から6.66%に引き上げ。
医薬品	シグマ・タウ・フィ ナンツィアリア	バクスター	米国		7月	8億200万 ユーロ	シグマ・タウ・フィナンツィアリアの急性白血 病用製品部門であるオンカスパール事業を買収。

〔注〕 時期は買収・出資完了月。

〔出所〕 各社発表資料、アーンスト&ヤングイタリア、KPMGイタリア、トムソン・ロイターなどから作成

表6 イタリアの対日主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位：100万ユーロ、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)			
	2014年	2015年			2014年	2015年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
繊維・衣料品・皮革製品	1,556	1,597	29.0	2.7	112	126	4.0	12.7
輸送機器	655	926	16.8	41.4	627	765	24.5	22.0
食品・飲料・たばこ	758	783	14.2	3.3	6	9	0.3	61.8
機械	456	491	8.9	7.8	734	841	26.9	14.7
医薬品	732	417	7.6	△43.1	120	117	3.7	△2.4
化学品	335	364	6.6	8.8	363	385	12.3	6.2
コンピューター・電子・光学機器	185	216	3.9	17.1	185	225	7.2	21.6
ゴム・プラスチック・非金属鉱物製品	120	131	2.4	9.0	183	168	5.4	△7.9
電気機器	121	116	2.1	△4.1	127	80	2.6	△36.8
金属製品	77	84	1.5	9.9	139	283	9.1	103.2
木材・木工品・紙製品・印刷物	19	25	0.5	36.0	13	13	0.4	2.8
農林水産物	24	25	0.5	1.7	4	4	0.1	8.9
燃料・石油精製品	1	2	0.0	39.0	1	2	0.1	53.1
鉱物・石油・天然ガス	2	2	0.0	△25.5	2	1	0.0	△16.4
合計 (その他含む)	5,357	5,517	100.0	3.0	2,703	3,122	100.0	15.5

〔出所〕 イタリア国家統計局 (ISTAT)

群強化を目指す買収が多くみられた。ここ数年は特に、炭素繊維やテキスタイルへのデジタル染色技術など、日本企業が競争力を有する分野におけるイタリア企業の買収が目立っている。炭素繊維分野では2015年9月、東レが炭素繊維中間機材製造のデルタテックを買収した。製品ラインアップの拡大およびサプライチェーン各段階でのソリューション提供体制の拡充を目指している。テキスタイルプリント分野では、ミマキエンジニアリングが2015年12月、イタリアのラ・メッカニカ・コストウルツィオーネ・テッシリの買収に関する基本合意を締結。買収先の関連装置製造ノウハウおよびブランドの取得により、欧州や世界でのテキスタイル用インクジェットプリンター業界での競争力強化を図るとしている。

イタリアから日本への対日直接投資額は1億1,300万ユーロの引き上げ超過となった。大型投資案件としては、太陽光発電インフラストラクチャーの日本法人であるエルゴサンジャパンによる埼玉県秩父市での太陽光発電所建設が挙げられる。同発電所は約1,000戸への電力供給能力を持つ。同社は今後も日本市場への展開を検討していくとしている。